

佐渡市消費者協会の活動を紹介します— 島内研修について —

佐渡市消費者協会 広報係 小林 睦子

今年度は7月8日に研修を実施し、参加者は48人でした。若い佐渡人が、社会にどう貢献し頑張っているかを知る機会となりました。今後の生き方に繋げていただければ幸いです。

最初は、八幡芋畑の見学です。生産者の遠藤さんから芋畑の前で説明を伺いました。遠藤さんは、良質な八幡芋の栽培方法を余念なく研究し、無農薬で、環境保全対策として生ゴミから作られる肥料とワラの堆肥と化学肥料を使い、以前に比べて甘くて柔らかく美味しい芋を栽培しており、「消費者協会へのお願いは、無農薬で一生懸命まじめにやっている人を応援してほしい」と語っておられました。

続いて、八幡地区にある黒豚の放牧場を見学しました。60頭の黒豚が、小さな餌小屋を備えた広い砂地で4か所にわかれて飼育され、砂地を自由に飛び回り、ストレスを感じないように放牧されている様子でした。この黒豚の肉（島ブタ）は、佐渡では八幡館と浦島だけが使用しているとのことでした。



最後の見学先は、「伝統文化と環境福祉の専門学校」です。2班にわかれて校舎を巡回し、生徒と先生がマンツーマンに近い授業の様子を見せていただきました。今年で6年連続就職率100%となり、優

秀な生徒を社会に送り出しているとのことでした。介護福祉学科のみが島内の生徒で、他学科は日本全国の島外生徒と留学生とのことで、全国から夢を託して佐渡で学ぶ若者を応援したいと思いました。



午後は、佐渡保健所の方から「放射性物質の検査状況とリスク」についてお話をいただきました。食品中の放射性物質が暫定基準値を超えた場合にその食品が市場に流通しないよう出荷制限しており、健康への影響は、一般的には安全が確保されているとの報告でした。

次に、市役所産業振興課が取り組んでいる「地産地消」のお話を伺いました。キャッチフレーズの「地産地消で佐渡を元気にしよう！」の元気の「氣」の中に「米」の字を入れて、農業にも観光にも力を入れているとのことでした。また、大人が「佐渡に帰ってきたいと言う子どもたち」を育成することが大切で、そのためには、保育園や小学校時代からのキャリア教育に力を入れたいとのことでした。

こうした研修で、佐渡の発展に力を注ぐことができます。みんなで手をつなぎ佐渡の発展に尽力しませんか。

人権・同和教育啓発推進講座

越佐にんげん学校 特別講座を開催します

新潟県人権・同和センターでは、人権意識の向上をめざして、毎年、新潟県内の市町村で、差別を伴う人権課題について専門の方からわかりやすく説明していただく講座を、年間8回開設しています。今年も特別講座を佐渡市で開設します。

日時 10月16日(金)

午後1時30分～4時30分

会場 金井コミュニティセンター

演題1 「佐渡金山における朝鮮人労働の実態について」

講師 称光寺住職 林道意氏

演題2 「佐渡の部落差別の現状と課題について」

講師 佐渡扉の会事務局長

石崎澄夫氏

韓国舞踊「トキの舞」

韓国伝統舞踊家／アヒラン保存会

日本支部長 元由鎮氏

参加費 2千円（センターの個人会員と会員登録をされている学校の教職員は1千500円、どなたでも参加できます。）

※当日、受付でお支払いください。

お申し込み・お問い合わせ

新潟県人権・同和センター

☎ 025-211-4740

FAX 025-211-4739